

郷土かみのかわの歴史・文化財

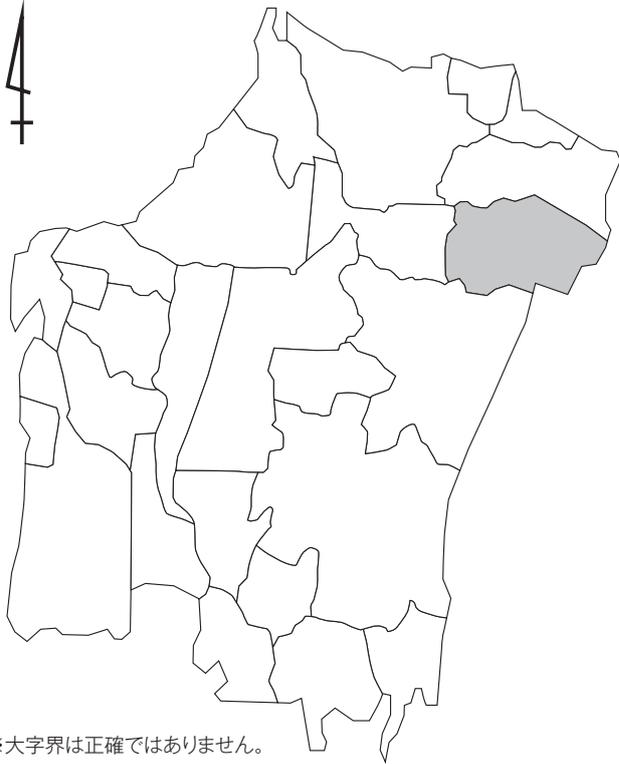
上三川の地域と歴史 東蓼沼

東蓼沼は、上三川町の北東部、鬼怒川右岸の低地に開けた集落で、対岸の向川原の地で真岡市と境を接しています。地区の西側には雀川が南流しています。字本田にある中館跡は、上三川城にゆかりのある人物の館とされる中世城館があつたといわれます。江戸時代

からは宇都宮藩領で、当時は東蓼沼村と呼ばれていました。文政11年(1828)には、家数64戸であつたと記録されています。天保14年(1843)、第12代將軍徳川家慶の日光社参の折には宇都宮宿の助郷役を務めました。助郷とは、江戸幕府が日光社参に際して人馬

の提供などを周辺の村々に課した労役のことです。

さて、東蓼沼の鬼怒川右岸には蓼沼河岸が設置されていたといわれています。河岸とは、船問屋が荷物の運搬や川の渡しなどの商いを行っていたところです。安政3年(1774)の高瀬船問屋株運上書上には、船問屋の蓼沼村政右衛門という人物の名が確認できます。明治時代に入り、鉄道網の発達によつて河岸は次第にその姿を消していききました。



※大字界は正確ではありません。

鬼怒川の右岸沿いには、地区の鎮守として星宮神社が鎮座しています。創建年代は不明です。本郷小学校の東側、蓼沼河岸の方から西へと続く道沿いには満福寺が座しています。建久年間(1190)~1198)の建立とされ、満福寺の『由緒』書によれば、西蓼沼の仏沼より出現した不動明王像に靈験を感じた宇都宮頼綱がお堂を設け、その像を安置したことに始まるといわれます。境内にある推定樹齢350年の大イチョウは、町の天然記念物に指定されています。



満福寺表門

さて、ここ満福寺には幕末の有名人が登場するエピソードがあります。その人物とは、新撰組副長・土方歳三です。時は慶応4年(1868)4月18日、戊辰戦争における宇都宮城の戦い前夜、土方率いる旧幕府軍別動隊は鬼怒川を渡つて満福寺に陣を置きました。

寺の本堂には、土方たちが軍議を行ったとされる部屋があります。翌朝、土方隊は一気呵成に宇都宮城へと進軍してきました。

幕末という激動の時代に思いを馳せつつ訪ねてみてはいかがでしょうか。